

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	駒ヶ根市児童発達支援施設つくし園 (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日		令和7年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和7年1月6日		令和7年131日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月3日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの発達状態に応じた小集団での支援を行っていること	母子通園クラスは、子どもの特性や発達状況に合わせて、タイプで利用の曜日を分けています。子どものニーズに合わせた活動の取り組みや成功体験を多く経験できる個別療育と、他の子どもたちとの関わりを通じて社会性や気持ちの交流等を身につける集団療育の両方の視点をもったプログラムを行っています。	保護者や関係機関からの聞き取り、状況観察や評価等のアセスメントを確実にを行い、明確な目標や視点を持ち、支援方法の具体化をはかる。
2	保護者とのコミュニケーションをとることに努め、安心して楽しく通っている	子どもたちの今の状態をしっかりと観察し、支援内容にフィードバックするようにし、丁寧な支援に心がけています。保護者がスタッフに気軽に声をかけやすいクラスの雰囲気作りにはスタッフが努めています。	子どもにとって最善とは何かを考えながら、児童発達管理責任者が中心となり、よりよい支援ができるように、専門職の助言も参考にして職員間で話し合いを進めます。
3	関係機関との連携体制があること	保育園や幼稚園等への交流保育の体験の機会を設けています。併行通園の利用児については、情報共有し、同じ視点で支援ができるようにしています。医療機関で実施した相談支援事業所を通じて、切れ目のない移行支援や地域支援が可能となり、先を見据えた支援ができるように努めています。	引き続き、関係機関との定期的な連携会議を実施し、子どもの支援状況や課題について情報を共有します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	サービス提供の資質の確保や向上への取り組み	担当職員の異動 子どもの様子や支援の共有のために職員間での話し合いが必要であるが、十分な時間の確保が難しい 専門職が常駐ではないため、その時々アドバイスになってしまう、支援の中心になってもらうことができない	職員の研修の機会の確保に努める 話し合いは、要点をしぼって行う 話し合いが、子どもの苦手な点やできないことに偏らないようにすることやストレスに目を向け支援を中心とした内容になるようにし、活発な話し合いにすることが必要 専門職の関わり方の検討を行う 地域の児童発達支援センターとの連携による、スーパーバイズや助言を受ける機会を増やす
2	保護者の意向を聞く機会を定期的に設けることが必要	支援目標があいまいになってしまうことや、園と保護者の思いがずれてしまう場合があるので、保護者との面接は大切にすることが必要 保護者により、自分から職員に話しをすることを遠慮してしまう	定期的に話ができるようにスケジュールを立てる 職員は保護者が話しやすいクラスの雰囲気作りを努める
3			